

別記様式（第8条関係）



平成29年10月31日

入善町長 笹島春人様  
入善町議会議長 佐藤一仁様

会派名 会派アクセス

代表者名 谷口一男



平成29年度 政務活動費収支報告書

入善町議会政務活動費の交付に関する条例第7条第1項に基づき、別紙のとおり  
平成29年度 政務活動費収支報告書を提出します。

(別紙)

平成29年度 政務活動費収支報告書

会派名 会派アクセス

1 収 入

政務活動費 700,000 円

2 支 出

項 目	金 額	備 考
調査研究費	588,840	新潟・山形・栃木視察研修
研 修 費		
広 報 費		
広 聴 費		
要請・陳情活動費		
会 議 費		
資料作成費		
資料購入費		
人 件 費		
事 務 所 費		
合 計	588,840	

3 残 額 111,160 円

(注) 備考欄には、主たる支出の内訳を記載する。



平成29年10月5 / 日

## 調査研究及び研修、要請・陳情活動等の報告書

会 派 名 会派アクセス報告者氏名 中瀬 淳哉

以下のとおり政務活動について報告します。

実施日	平成29年 7月10日 ~ 平成29年 7月12日
活動項目	視察研修
目的	新潟県燕市：「東京つばめいと」事業をはじめとしたUターンや移住・定住の取組みについて、新庁舎建設について 山形県川西町：NPO法人きらりよしじまネットワークによる住民主導のまちづくりについて 栃木県那須町：ゆいま〜る那須で行われているCCRCについて
活動先	新潟県燕市役所、山形県川西町（NPO法人きらりよしじまネットワーク）、栃木県那須町（ゆいま〜る那須）
活動参加者	谷口一男、山下勇、中瀬範幸、鬼原征彦、松沢孝浩、佐藤一仁、野島浩、田中伸一、本田均、中瀬淳哉
内容 (応対者、講師名、聴取者名等も)  考察等	初日は、新潟県燕市にて「東京つばめいと」事業とUターン、移住定住の取組みについて学びました。新庁舎の建設については、当時の担当者がいないということで、庁舎を見学しながら、現状の設備等についてお聞きしました。 2日目は、山形県川西町の吉島地区にある「NPO法人きらりよしじまネットワーク」を訪れ、住民自治について学びました。このNPO法人は吉島地区の住民全員が参加しているものであります。 最終日は栃木県那須町にある「ゆいま〜る那須」で行われているCCRCについて学びました。

※調査研究、研修、要請・陳情活動等のために旅費や宿泊費、研修費等が発生した場合に作成し、政務活動費出金票に添付する。(任意様式可であるが、おおむね上記様式に準ずること)

視察会計報告書

	提出日	
氏名	中瀬 淳哉	
所属	会派アクセス	
目的	政務活動 新潟・山形・栃木視察	

■交通費(交通費・宿泊代)



内容	月日	区間・宿泊地	金額
交通費(バス)10名分	7月10日～7月12日	入善町役場～新潟・山形・栃木 乗務員費・駐車場代他含む	328,940
宿泊費	7月10日	新潟第一ホテル(10名分)	60,000
宿泊費	7月11日	郡山ワシントンホテル	86,400
	計		475,340

■その他経費(通信費・土産代等)

夕食代	7月10日	政務活動費支給分 10名分 2600円×10	26,000
夕食代	7月11日	政務活動費支給分 10名分 2600円×10	26,000
昼食代	7月12日	政務活動費支給分 10名分 540円×10	5,400
お土産代	7月10日～7月12日	視察先へのお土産	8,700
	計		66,100
研修費	7月11日	NPO法人きらりよしじま(1500円×10)	15,000
研修費	7月12日	ゆいま～る那須(3240円×10)	32,400
	合計		588,840



一人当たり 58,884

政務活動費出金票1

決	議長	議会事務局
裁		

提出日	平成29年10月31日
項目	①調査研究費 ②研修費 ③広報費 ④公聴費 ⑤要請・陳情活動費 ⑥会議費 ⑦資料作成費 ⑧資料購入費
適用項目及び内容	※調査研究、研修、広聴、会議、要請・陳情活動は実施日も記入。 視察研修に伴う交通費、宿泊費、研修費等
会派名	会派アクセス
金額	588,840円
活動者及び支出内訳	別紙添付
領収書	

紙面不足のときは票2（様式第3号）以降若しくはA4用紙に記載又は添付。

承	会派代表印	経理責任者印
認		

報告者氏名 中瀬 淳哉

交通費・宿泊代

領 収 証

8

会派アケス様

平成 29 年 7 月 25 日

¥ 304,080-

但し

上記の金額正に領収いたしました



最新装備のサロンカーで楽しいバス旅行  
入善観光バス(株)

富山県下新川郡入善町入船7019-44  
TEL (0765) 74-0563  
FAX (0765) 74-0573



領 収 書

№ 093211

入善町議会 会派アケス 殿

平成 29 年 7 月 25 日

¥ 171,260-

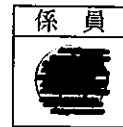
但し

上記の金額正に領収致しました。



株式会社 **エヌトレベル**

〒930-0887 富山市五福3601-13  
TEL (076) 433-0048 FAX (076) 433-6333







# 費用弁償分

初日


2017年7月10日(日)

領 収 証

入善町議会会派アレス様

¥26,000-

但し、飲食代として  
〒950-0087  
新潟市中央区東大通2-1-7  
十 郎  
TEL: 025-247-5106  
\* 財布等で保管戴く場合、印紙面で内側に折って保管願います。

担当者   
0001-4539

2日目


29年7月11日(火)

領 収 証

入善町議会会派アレス様

¥26,000-

但し、食費代として  
牛豊朝日  
福島県郡山 3-34  
TEL: 024-4129

担当者   
0001-1316

最終日

領 収 証 入善町議会会派アレス様 No. \_\_\_\_\_

金額	2	6	0	0	0	0	0	0	0
----	---	---	---	---	---	---	---	---	---

内 訳	
現金	
小切手	/
手形	/
消費税額等(%)	

但し食代として

2017年7月12日 上記正に領収いたしました

〒929-3224 栃木県那須郡那須町豊原乙627-116  
株式会社 コミュニティネット  
ゆいま〜る那須  
TEL 0287-77-7223 FAX 0287-77-7224

収入印紙

視察先への工産代

Chat <sup>Artissier</sup> is noir

洋菓子店 シャ・ノール  
富山県下新川郡入善町入膳164-4  
電話：0765-74-2772  
FAX：0765-74-2772

領収書

2017年07月09日

入善町議会 会派アリス様

\*\*\*8,700円

但しお品代とし  
(内訳)

税抜商品額 8,066円  
消費税相当額 644円



上記正に領収いたしました

＜本証取扱い上のお願い＞  
財布等に入れ保管される場合、印字面を内側に折って  
保管してください。

研修費

領収証 入善町議会 会派アリス様 No. \_\_\_\_\_

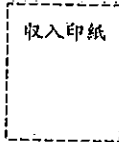
金額	4	7	3	2	4	0	0
----	---	---	---	---	---	---	---

内 訳
現金
小切手 /
手形 /
消費税額等(%)

但 研修費とし

2017年7月12日 上記正に領収いたしました

〒929-3224 栃木県那須郡那須町大字2627-115  
株式会社 コミュニティネット  
ゆいま〜る那須  
TEL 0287-77-7223 FAX 0287-77-7224



GR1616

領 収 書

日付	2017/7/11
番号	0017
担当	笹木玲子

富山県入善町議会 様

★ ¥15,000 —

但し、視察資料代として  
上記正に領収いたしました

特定非営利活動法人きらりよししまネットワーク  
理事長 星野 廣 志  
〒999-0214 山形県川西町吉田5886-1  
TEL:0238-44-2840 FAX:0238-44-2841  
E-MAIL:kirari-npo@e-yoshijima.org

## 行程表

コース名：新潟県燕市：「東京つばめいと」事業をはじめとした U ターンや移住・定住の取組みについて、新庁舎建設について

山形県川西町：NPO 法人きらりよしじまネットワーク

栃木県那須町：ゆいま～る那須

視察先：新潟県燕市、山形県川西町、栃木県那須町

視察日：7月10日（月）～7月12日（水）

メンバー：入善町議会 会派アクセス 議員 10名

担当者 会派アクセス 中瀬淳哉

工程／宿泊地					
<b>10日（月）</b>					
バス		バス	視察先	バス	
出発地	-----	昼食	-----	燕市役所	-----
入善町役場		燕市内		視察研修	ホテル着
9:00		11:30～12:30		12:45頃 着	16:00 着
				視察：13:00～15:00	
昼食 未定（燕市内）、夕食 未定（新潟市内）、宿泊 未定（新潟市内）					
連絡先：燕市議会事務局 丸山様					
<b>11日（火）</b>					
バス		バス	視察先	バス	
ホテル 出発	-----	山形県川西町	-----	NPO 法人きらりよしじま	-----
9:00		11:30 着		視察・研修	ホテル着
		11:30～12:30		視察：13:00～16:00	（郡山市内）
					18:00 着
昼食 未定（川西町内）、夕食 未定（郡山市内）、宿泊 未定（郡山市内）					
<b>12日（水）</b>					
バス		バス	研修先	バス	
ホテルロビー集合	-----	ゆいま～る那須	-----	入善町役場到着	
9:50		日本版 CCRC の具現化について		19:00 着	
		視察開始 11:00～13:30			
昼食はゆいま～る那須にて					
バス ----- 鉄道 ■■■■■					
天候や交通事情等の理由により変更になることもあります。					

視察初日。

新潟県燕市で視察研修を受けました。



視察の内容は、

「東京つばめいと」事業とUターン、移住定住の取組みについて  
新庁舎建設について  
の2点です。

まずは「東京つばめいと」事業と移住定住の取組みについて研修を受けました。

「東京つばめいと」事業とは、主に首都圏在住の燕市出身者に加え、燕市に興味を持っている若者を対象に実施する、様々なイベントや情報提供の事業です。将来的に燕市で仕事したり、ふるさと納税など燕市との繋がりをもって、首都圏で活躍してくれることを継続的に応援していく取組みです。

様々なイベントと Web の情報発信を通して、燕市と若者の繋がりづくりを支えています。現在登録者数、大学生30名、社会人81名の計111名ということです。このうち12名が2年の間に就職などで燕市にUターンしているそうです。

情報発信については、広報・チラシ設置に加え、成人式でのチラシ配布、周辺の高校3年生へのチラシ配布、Facebook を活用した周知などです。

イベントとしては、交流会を年3回程度、ワークショップなどがあげられます。また、燕市は金属加工の町ということで、インターンシップにも企業の協力を得ながら力をいれております。

さてここまで見ると、「情報発信やインターンシップなんてどこでもやっているじゃないか!」と思われるかもしれませんが、でも燕市の取組み素晴らしいんです!

どこが素晴らしいかというところ・・・。

まずは、行政と市民、東京つばめいと登録者、そして企業に一体感があるというところ。Facebook やLINEなどのSNSを使い、情報交換を頻繁に行い、また企業はインターンシップにも積極的に協力しております。これって簡単なようで非常に難しいと思います。こういった取組みは行政の独り歩きになりがち。しかし、市民や企業を巻き込み一体となっている、素晴らしい！現在、燕市では「つばめ産学協創スクエア事業」を展開しており、その事業の一つとして、学生が研修プログラムのために滞在する施設を、企業から寄付金を募り、建設中だそうです。寄付金は推定約1億円ほどだとか。

次に、燕市のこのUターン施策の根本に郷土愛をおいているところです。郷土愛を持つことにより、地域に戻ってこようという意識が生まれる、または地域にいなくても何らかの形で関わっていかうという意識が生まれます。

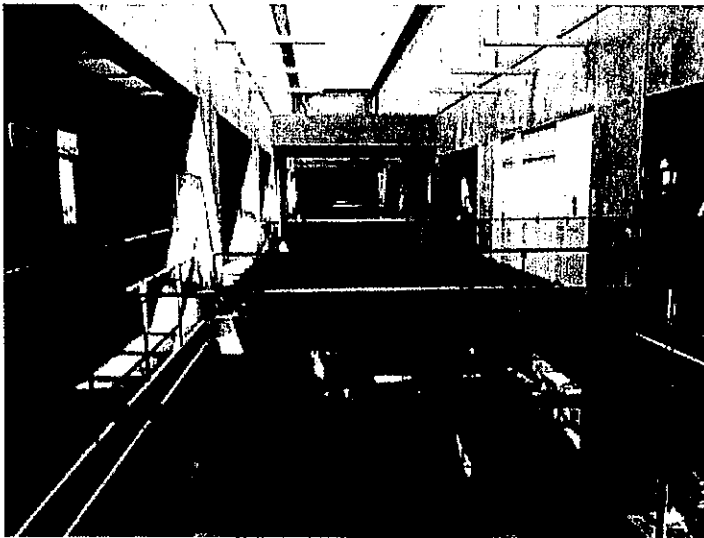
燕市では、幼児期から高校生にかけて、郷土を愛する心と個性を伸ばす教育を様々行っております。幼児期には「つばめっ子かるた」、小学生では「燕ジュニア検定」、中学生では「Jack & Betty 教室」、高校生～20歳では「羽ばたけつがくろ応援事業」などそれぞれの段階に合わせて郷土愛を育てているとのことでした。特に「羽ばたけつがくろ応援事業」では、若い人たちの達成したい目標、叶えたい夢の実現を応援するため、自己啓発、体験活動、学習、研修視察など「自分たちのまちは自分たちでつくる」という、自由な発想と行動を活かした企画提案を募集。書類選考とプレゼンののち、企画が通れば、個人10万円、団体25万円を補助するというものです。素晴らしい事業だと思いませんか？私も議会で提案したいなと思いました。

さて3つ目としては、職員の熱意です。とにかく本気だなと思いました。

事業の一つとして、「企業と大学を結びつけるための燕市企業バスツアー&情報交換会」を行っているのですが、その大学をどうやって見つけたかというところ、「とにかく飛び込み営業！」だそうです。最初は相手にもされてなかったそうですが、何度も何度も通うことで、この事業には大学13社がのってくれたそうです。素晴らしい！！

さて私は一般質問で、まずはUターンから力をいれてはどうかやまずは入善町を好きになってもらうようにファンクラブを作ってはどうか、また郷土愛を育てなければならぬと言ってきました。今回の視察であらためて大切だと思いましたし、この燕市を具体例にして、もう一度提案しなければならないなと思いました。

庁舎の視察については、写真の通り素晴らしい建物でした。



オープンで素敵、そして市民が来やすい庁舎だと思いました。耐震化が終わっていない当町の庁舎に対する、今後の参考とさせていただきます。

視察2日目は山形県川西町に来ました。

目的はNPO法人きらりよしじまネットワークの視察でした。

新しい地域モデルに衝撃を受けた研修となりました。



まずは川西町と吉島（よしじま）について書きたいと思います。

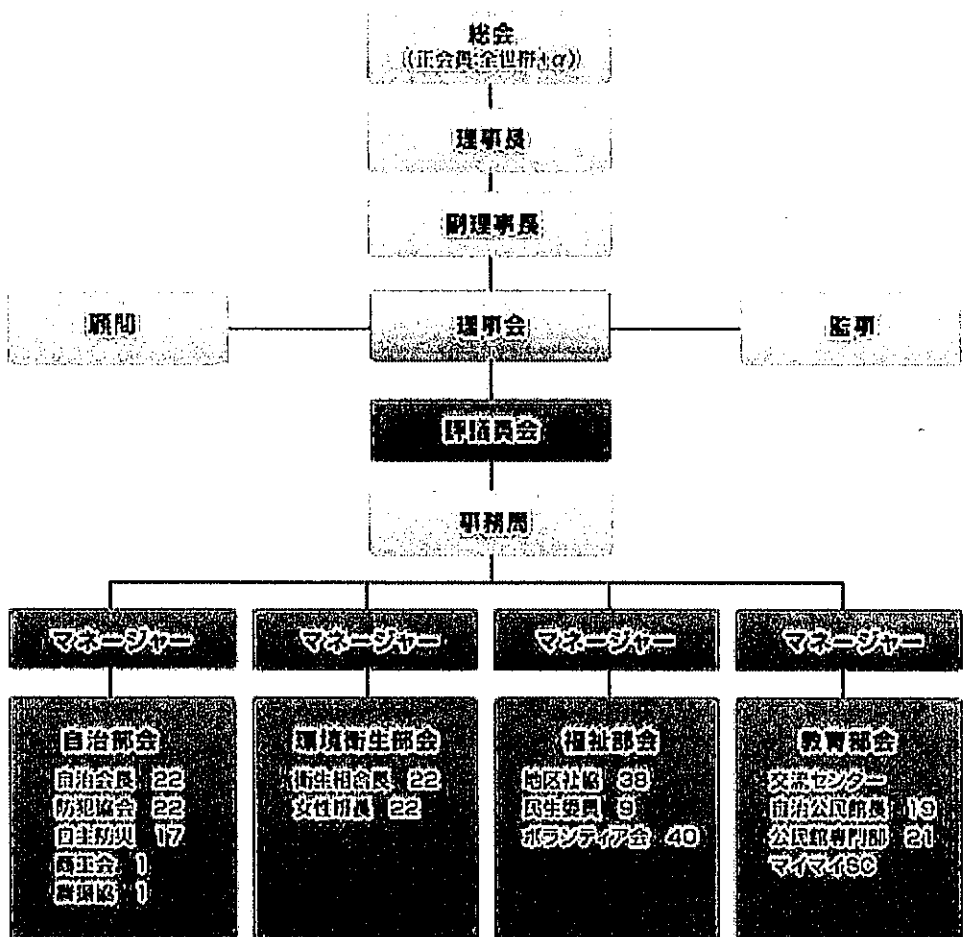
川西町は山形県の南部に位置し、昭和の大合併で1町5ヶ村が一つになった町です。人口は、約16,000人、7地区（小学校区）で町を構成しております。

そしてその7地区の内の一つである、吉島（よしじま）地区は人口が約2,600人、世帯数が700戸余り、小学校が1つあります。昭和の合併時には人口が約5,000人いたのが現在では半分になっており、人口減少が続いております。

さて川西町は平成の大合併の際、単独町政を選んだものの、町の借金が多く、一時期は財政破たん寸前までになりました。その際、行財政改革の一環として、公民館の民営化を決めます。

そこで、吉島の皆さんは「どうせやるなら、やらされるのではなく、自主的にやろう」ということで、2004年に各種団体の会計一元化と法人格取得に向けて動き出しました。2005年には吉島地区の地域全体で法人格を取得することを決め、地区計画策定委員会を設置し、自主防災組織連合会を設立。2006年には吉島地区公民館指定管理者制度を受託。2004年から2007年までの3年間で、住民説明と住民ワークショップを繰り返し、2007年に全世帯加入NPO法人「きらりよしじまネットワーク」を設立いたしました。

このきらりよしじまの組織構成は



このようになっていて、各部会があり、それぞれの部会でワークショップ・住民アンケートを行い、事務局会→理事会→総会という形で審議し、実行に移しております。住民の合意形成のもと、成り立っているとのことです。

そしてみんなが話をする場、聞く場を作り、PDCAサイクルをしっかりと行っております。さてそれぞれの部会で行っていることを全部は多すぎて書けないかもしれませんが、少し書き出してみます。

自治部会・・・自主防災組織事業、よしじまっ子見守り隊、交流事業、農部交流事業、防犯灯事業、若者活動活性事業、育成事業、広報活動、受託事業

環境衛生部会・・・環境保全事業、緑化推進事業

福祉部会・・・敬老会事業、児童クラブ事業、よしじま燦燦事業、福祉活動事業

教育部会・・・家庭教育学級、わんぱくキッズスクール、再チャレンジ塾、講習研修事業、冬季スポーツ事業、マイマイスポーツクラブ事業

全部会共通事業・・・吉島地区第3次地域づくり計画、運動会事業、ふれあい祭

など、これらの事業を行っております。一つ一つの事業の中に、様々な活動があるわけです



が、これだけ行われている地区は全国的にみてもないのではないかと思います。

そして、地域の活力を維持継続していくために、独自の人材育成プランをたて、地域の若者を育成しております。各自治会から推薦され地域活動に参加する専門部制度で気づきの場をつくり、新しいリーダーの発掘と育成に力を入れております。

こんな住民自治があるんだと、すごく勉強になりました。

視察最終日。

今日は、栃木県那須町のゆいま〜る那須で研修を受けました。



ゆいま〜る那須は、株式会社コミュニティネットが運営する高齢者向け住宅です。戸建ての住宅をかためて、一つの集落を作っております。集まりすぎず散らばりすぎず、「わ」になって暮らすことをコンセプトとして、それぞれに必要な仕組みとサポート体制を住民みんなで考えながら、また地域と連携しながら暮らしております。

CCRCを具現化しているといえると思います。

CCRCとは Continuing Care Retirement Community の略で、高齢者が健康なうちに入居し、終身で過ごすことが可能な生活共同体のことを言います。介護が必要ではない時に都会から田舎に移住して、地域のコミュニティに参画してもらい、人口減少で衰退する地方を元気にする一役を担ってもらうのが日本版 CCRC だと理解をしております。このゆいま〜る那須はまさしくその先進地であります。

那須町はご存じのとおりリゾート地で、首都圏の別荘地ではありますが、そのまま定住した人も多く、人口全体の40%が移住者であります。しかし、高齢になってくるとともに、那須のインフラよりも都会のインフラの方が整備が整っていることから、都会に戻る動きが出てきたため、その動きを止めるためにはどうすればいいのかと、コミュニティネットに依頼があり、プロジェクトがスタートしたとのことでした。





したがって、高齢者がこの町から出ていなくても良いように、食堂があったり、移動販売があったり、様々な文化活動があり、またデイサービスセンターも隣接しております。また新白河の駅前にある協力医療機関に送迎車で行くこともでき、そして月1回その医療機関の医者が訪問してくれるとのことでした。

入居の条件は60歳以上であること、入居費用は家賃一括前払いで1175万円（10.02坪）、15年以内に契約終了の時は返還金制度があり、また15年以降の家賃は不要だそうです。月々の費用は一人入居の場合、共益費8000円、サポート費30850円となっております。現在70人ほどが協働しながら、暮らしているとのことでした。

首都圏からは約30人ほどが移住してきており、他は北海道から九州までの方がおられるそうです。

CCRCの完成形だと思います。

さて、当町において「にゅうぜん『まち・ひと・しごと』総合戦略」の中で、入善版CCRCとして計画を検討していくとしております。しかし、このゆいま〜る那須に視察にきて思ったのは、「CCRCは行政が主体でやるべきではない」ということです。

CCRCを行政主体でやるとしたならば、入善町の財政規模ではかなりの負担になります。またこれだけのサービスが提供をできるとも思いませんし、できたとしても、これもかなりの負担となります。

どのようにすれば民間に来てもらえるかを考え、その民間に対しサポートをしていく体制、受け皿を作ることこそが行政の役目なのだろうと思いました。

以前、入善版CCRCについて一般質問を行いました。一つの答えが出たような気がしますが、民間の誘致に対して知恵を絞っていかなければならないと思いました。